

OptoNext Hamamatsu 通信

Vol.8 「世界初」の大学院大学を目指す



■ 巻頭言



夢をかなえる

光産業創成大学院大学
学長 瀧口 義浩

平成17年4月、光産業創成大学院大学が開学した。光技術を実践の中で、本当の新しいビジネスに展開できる人を育てることを目的とし、多くの方々の努力と熱意によって作られた世界初の大学院である。「世界初」あるいは「世界一」は、故晝馬輝夫会長が好んだ言葉だと思っている。

浜松ホトニクス㈱の社員として、30数年前に入社した当時の私にも、会長は「会社を利用して、世界一になれ」とよく言ってくださった。と同時に「人と同じことをするな」といい、物まねによる事業には常に真っ向から反対をされていた。その意味では、「日本初」という言葉には見向きもされなかった。それは、海外の本当に優秀な科学者や技術者や経営者と長年付き合い合わせたことによって得た「真実」であったのだと思う。

これらのことを考えると「世界初」である産業を作り上げることが「産業創成」ということであり、物まねによる事業の発展は「産業創成」ではないと考えられていたに違いない。

会長が本学のような大学院を作りたいと考えられたのは20年ほど前かと思われる。それまでの日本の経済発展は、世界の物まね（あるいはその改良）で得られたところも多く、一方で世界の最先端を走っていた浜松ホトニクス㈱においては、そのような物まねではもう発展できないところにまで来ていた。つまり、会長は、日本の経済も世界の物まねや改良では、いずれ行き詰ると考えられたのだと思う。

そこで、まったく新しい考えで「光の産業を創り上げる」大学院を創設し、そこに自由な発想を有する人材を集めて、日本から世界に向けて事業発信を目指したのだ。本学の現在は、そのような点において「夢をかなえている」だろうか。これは、常に我々の心にとどめて、自問自答を繰り返すことが必要である。私も「世界初」の大学を目指したい。

【光×中小企業】シリーズ

観光業と光のコラボレーション

湖を活用した躍動感あふれる観光コンテンツを発信

オフィスナッツ株式会社 オーナー 山内 秀恭さん(13期生)

浜松市北区三ヶ日町大崎266-5 TEL 053-401-1595 <https://www.office-nats.com/>

■ 浜名湖がとりもつ大学との縁

光産業創成大学院大学は風光明媚な奥浜名湖に立地し、近隣にはウォータースポーツや釣りを楽しむ人が多く訪れる。近年は近くの館山寺温泉を目指して中国などからの観光客も多い。この浜名湖の魅力をさらに広く発信していこうというのが山内さん率いるオフィスナッツ(株)だ。

「浜名湖の地形的な魅力はとても大きいのです。マリンレジャーという観点からすれば海も人気が高いのですが、波が大きくて船がつけられなかったりして使い勝手が悪い。それに対して浜名湖は広さも適度で水面も安定しています」と山内さん。湖でいえば琵琶湖もあるし、波が穏やかな内海であれば瀬戸内海もある。しかし「20~30分のクルージングで変化のある

景色が見られ、狭すぎず、広すぎずの適度な大きさで言えば、浜名湖が一番なのだという。

山内さんが光産業創成大学院大学に入学したのは2017年4月。入学の動機は「観光地としての浜名湖の魅力と効果的な活用方法を学術的な観点から検討し、観光サービスに反映していきたい」ということだった。

「浜名湖畔に立つ施設やレストランは棧橋を常設しているところが多いのです。歴史をさかのぼると『舟渡し』という職業があったらしく、そういう文化のある街だったらいいですね。この資産を活用して新しい観光コンテンツを考えれば、ビジネス的に成立するのではと考えています」。



■ 観光業×光で新たな観光コンテンツが誕生

観光産業だけを見ていたら、「光」を標榜する本学を選ぶ理由は見つからない。しかし観光と光の関係を山内さんはこんな風にとらえている。「『観光』の意味は『光』を『観る』。一説によると、離れた土地に行って自分の出身地にはない『新しい』ものを見つけて帰ることを『観光』と呼ぶそうです」。したがって光と観光は密接にかかわっているという理屈だが、山内さんにはもう一つ本学を選んだ理由があった。それは、「浜名湖も光技術も浜松を代表するもの。この2つを結び付けば、何か新しいことができるかもしれない」という直感だった。そしてこの直感はいくつかの具体的な構想として形を現し始めている。

「たとえば現在やっている浜名湖クルージング（ウォータードライビング）のサービスに、光技術を使った新しいコンテンツを付け加えることを考えています。今年の5月からはクルージング中にドローンを飛ばして、湖上からボートを俯瞰する映像をお客様のゴーグルに映し出すサービスを始める予定です。ボートの躍動感にVR（バーチャルリアリティ）の視覚的体験を加えて、浜名湖ならではの新しいコンテンツが提供できるはずです」

Profile

ウエイクボードやスキューバダイビングなど多彩な趣味を持つ。浜名湖の特徴的な地形や大自然を隅々まで堪能できるウォータードライビングサービスを提供。2017年光産業創成大学院大学入学。

ボートのビジネスは春～夏の半年に集中する。年間通してのビジネスを検討するうえでも光技術は助けになるという。「たとえば浜名湖に停留する船舶のメンテナンスビジネスなども考えられます。船舶に付着するフジツボなどの海生生物がボートの燃費に悪影響を与えると問題になっているのですが、これをレーザーで除去する技術が開発できれば、浜名湖だけでなく全世界に広がるビジネスになるはずです」。

当面は浜名湖の新しい魅力づくりとその発信に尽力するという山内さん。観光と光という今までになかったコラボレーションが生み出す次の展開が楽しみだ。



Message from Professor 指導教員からのメッセージ



増田 靖 教授

ウォータードライビングで浜松観光の救世主に!?

山内さんは、これまで印刷業、イベント企画業、飲食店を営んできた起業家です。浜名湖の活性化のために新たに舟運ビジネスを始めるにあたり、私の研究室を訪ねてきました。以前から光技術に強い関心を持っていたそうで、観光と光技術を繋げたビジネスを構築したいと熱い想いを語ってくれました。山内さんは非常に発想が豊かで行動力があり、単なる舟運ではなく、船上での食事やドローンによる空中撮影などのサービスを加えたウォータードライビングという新しいビジネスを始めました。山内さんの行動様式は、成功した起業家の行動分析から見出されたエフェクチュエーション（実効理論）の行動原則に即しています。近い将来、浜松観光の救世主になるかもしれません。大いに期待しています。

シリコンバレーの最大の強みは失敗を賞賛する文化

経済産業省「始動 Next Innovator」プロジェクト

シリコンバレー研修プログラム参加レポート 株式会社里灯都 代表取締役 酒井浩一(11期生)

【始動 Next Innovator 2017とは】

安倍晋三総理が、シリコンバレー訪問時に発表した「シリコンバレーと日本の架け橋プロジェクト」の第1弾として、「始動 Next Innovator」プロジェクトが動き出し今年で3回目を迎えます。本プロジェクトは、経済産業省が主催し、アクセント株式会社とベンチャー企業への投資を専門に行う株式会社Wilにより運営されており、国内研修が全6回(11日間)とシリコンバレー研修が2週間から構成されています。国内プログラムで約250名から126名が選ばれ、更に、国内研修最終日にシリコンバレー行きの選考が行われました。その結果、私は最終の20名に選んで頂き、この度シリコンバレーの研修プログラムに参加してまいりました。

【多くの出会いとコミュニティ】

Evernote共同創業者であるフィル・リービン氏などの著名な講師に加え、Stanford University大学、シリコンバレーの企業、スタートアップなどの見学を行うことができ、日本ではなかなかできない経験をさせて頂くことができました。シリコンバレーの凄さは何かと言えば、ベンチャー起業家が作るコミュニティとそのコミュニティを応援するエンジェル投資家、ベンチャーキャピタリストの存在であると感じました。今回、多くのすばらしい起業家や企業のボードメンバーならびにベンチャーキャピタリストそして多くの関係する素晴らしい方々に多くお会いすることができ、自らの事業プランだけでなく、代表取締役として経営者としてもブラッシュアップすることができました。



【意外だったシリコンバレー】

私自身は15年間、研究職・開発職として仕事に邁進してまいりましたが、社会人17年目にして起業し、現在に至っております。シリコンバレーの起業家と言えば若くて良い意味でクレージーでということをおられるかもしれませんが、統計的にはシリコンバレーの平均起業年齢は40歳で、私自身が起業した年齢とほぼ同じです。確かに早く起業したほうが良いとの考えもあるかもしれませんが、企業などの法人にて経験を積んだほうが良いと考える人も多いということが分かりました。

浜松に住んでいると電車がなかなか来なかったり、終電が早かったりと不便に感じることもありますが、シリコンバレーはもっと不便です。コンビニは少ないし、トイレは少ないし、タクシーは捕まらない。「コンビニは少ない」は宅配シェアリングサービス、「タクシーは捕まらない」は走っている車のシェアリングサービス、「家高い、ホテル高い」は個人民宿としてそれぞれ有名なシリコンバレー発のベンチャーが解決しています。

【 最 後 に 】

この度、シリコンバレーに派遣頂き、シリコンバレーのベンチャーは発想が豊かですが、最大の強みは失敗を称賛する文化ではないかと感じました。どんどんやっでどんどん失敗する。小さなところで試してみて、最後には世界を狙う。そんなビジネスモデルを今後は考え事業展開に行ってまいります。



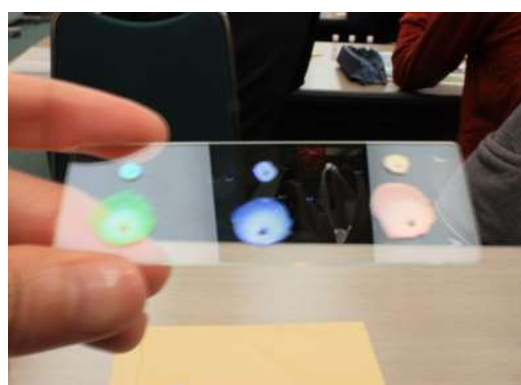
◆2月10日、11日開催 グランシップ文化講座報告

光科学へのいざない～その光が導く未来～

光産業創成大学院大学 学長 瀧口義浩



講座テーマ	
2月10日	2月11日
光の基本的な見方・考え方Ⅰ	光の基本的な見方・考え方Ⅱ
わざわざ光を分ける必要って？	生物と光
人と人をつなぐ光『ホロライト』 ～安心・安全・面白い新しい光の使い方	光あれ！ ～光を生み、光と遊ぶ～



2日間の講座に高校生など322名が参加。

静岡県文化財団、ふじのくに文化情報センターおよび静岡県の主催による上記テーマでの講座が、2月10日と11日の2日間にわたって静岡市のグランシップにて開催されました。これまでのグランシップ文化講座では、ゲノムや人口動態をテーマとして開催されてきましたが、新たに「光」をテーマとする講座を開催したいとのことで、本学が協力することとなりました。

1日目は、「光」と「起業」をテーマとしてみました。本学の卒業生であるサイエンスデイズ(株)の林田社長とパイフotonics(株)の池田社長にそれぞれご登壇いただき、「わざわざ光を分ける必要って？」や「人と人をつなぐ光

『ホロライト』』といったテーマで講演をしていただきました。2日目は本学の平野講師による「生物と光」をテーマにした講義を含め、光についてさらに深く解説する内容としました。

今回の講座のメインターゲットは高校生、それも科学や工学が好きな生徒、学生たちです。この2日間の参加者は合計322名、学生だけでも223名の参加となり大盛況となりました。浜松からも浜松工業高校と浜松南高校がバスや新幹線で大勢訪れ、楽しい講座になりました。特に、それぞれの講義の中での実験や実習を通して、より身近なイベントになったと思います。

◆2月13日開催 地域中核企業創出・支援事業 ワークショップ報告

レーザーロボティクスの
新たな可能性を開く！

本学が受託した「平成29年度地域中核企業創出・支援事業」の一環として、2月13日に「レーザーロボティクスの新たな取り組みに迫る！」と題して、ワークショップを開催しました。地元製造業を中心に、70名を超える参加者を集め、「レーザーロボティクス」に対する期待の大きさを実感しました。



演題	講演者
「熟練工によるオンサイト手作業溶接工程のインテリジェント化」事業概要	光産業創成大学院大学 副学長 瀧口義浩 (本事業プロジェクトマネージャー)
金型補修・溶接におけるレーザーロボティクスの可能性	光産業創成大学院大学 副学長 坪井昭彦 (本事業専門家)
事例紹介「金型のレーザー補修の取り組み」	浜名湖電装株式会社 工機部 釜谷知希(ともき)様 工機部型課 加藤亨様
レーザーロボティクスを構成する技術紹介 ①レーザー金型補修技術について ②レーザー溶接およびレーザーヘッド開発について	テクノコート株式会社 製造・開発課 課長 福世訓久様 大建産業株式会社 代表取締役社長 武田信秀様

編集後記

今年の冬は寒くて長い…とと思っていましたが、3月の声を聞くと気温はぐんぐん上がり、桜前線も大急ぎで北上しています。チューリップも菜の花も一斉に満開になり、新たな想いとともに入年度がスタートしました。今年度も皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

OptoNext Hamamatsu 通信
Vol.8 2018年4月発行



学校法人光産業創成大学院大学
〒431-1202 浜松市西区呉松町1955番1
TEL: 053-484-2501 FAX: 053-487-3012
E-Mail: info@gpi.ac.jp
http://www.gpi.ac.jp



光産業 検索